



三氣の門 PORTAL SANKI

NO.32

2026.1.8

文責：佐藤正一

時間厳守は信頼の証

ふゆやす まえ こうちょうこうわ
～冬休み前の校長講話より～

保見中学校の生徒全員というわけではありませんが、保見中生の課題に「時間を守る」ことがあります。そこで時間厳守の大切さを「ホラー映画リングの貞子」を例に話すことにしました。(どんな話だったかは、お子さんに聞いてください)

時間が守るという行動は、私たち日本人は大切な考え方だと小さな頃から教えられていて、時間ぴったりではなく5分前には集合するくらいの心構えをもっています。

しかし、そういう考えは世界的にみるとスタンダードではありません。例えば、ブラジルでは「バーベキューパーティをしましょう…時間は12時です」と決めていても時間通りに行くのはマナーとして失礼な行為になります。往々にして12時には準備が完了していなく、むしろ12時から準備開始があるからです。準備中にお客様さんが来たらその接待もしないといけないから、迷惑というわけです。これは欧米のホームパーティでも少し遅れていくのがマナーとしてあります。世界的にみると時間に遅れていくことは、普通なことなのです。保見中の外国籍生徒の中に、時間厳守という考え方がない生徒がいるのも、そのような理由からかもしれません。

ただ、ビジネスの場面で時間に遅れるとお客様さんはいい気分にならないでしょう。11時開店のラーメン屋さんの前に食事をしようとお客様さんが並んでいるのに、11時に店員もおらず、ラーメンの仕込みをしていなかつたら、二度とそのラーメン屋に行こうとは思わないでしょう。

電車の時間も日本は正確です。これも遅れると次の乗り継ぎができなかったり、仕事に遅れてしまったりすることになります。だから、時間を守るが国の経済活動を維持するのに重要な考え方となっているのです。

日本で成功するには、『時間厳守』という考え方を理解する必要があります。時間を守れない人間は、「そういう人だ」と信頼をなくすだけです。

